

「秋の恵の集い」開催速報

10月7日編集

9月26日（土）及び9月27日（日）の一泊二日の日程で、富山県中央植物園友の会きのこ部会長栗林義弘先生を招聘し、「秋の恵の集い」を開催しました。

「秋の恵の集い」の目的は、秋の有峰で、森の散策をしながら、キノコ採りやキノコの利用法などを学び、有峰の自然の豊かさを体感するものです。参加者はベテランも含め21名でした。今年有峰の8月は例年になく暑く、9月に入っても降水量が少なかったせいか、山にはきのこが余り出ていません。参加者にはキノコ採りを楽しんで戴けるか心配していました。

一日目の9月26日、10:00 富山駅北口バスで出発し、立山アルペン村経由で、10:30 有峰ビジターセンターに到着しました。10:40 よりはじまりの会開催、次長吉江の挨拶に続き、講師の栗林先生紹介、担当の森永指導員より本日の日程、注意点等について説明を行いました。12:00 ビジターセンターより冷タ谷キャンプ場へ出発、12:20 より昼食を取りました。この冷タ谷キャンプ場で、キノコ観察及び採取を行った後、バスで桐山まで移動、同様にキノコ観察及び採取を行いました。桐山では、悲願の天然のマイタケを採取した親子がいました。まさに、「What a lucky boy he is !」、「beginner's luck」、いい思い出となりました。15:00 バスで冷タ谷キャンプ場ロッジに戻り、各自が採取したきのこを、きのこ同定カードに記入戴いた後、栗林先生に同定戴き、きのこの名前、食毒の程度：食用・可食・不食・毒を記入戴きました。皆さん、同定結果を見て、栗林先生に質問する人や一喜一憂していました。15:45 冷タ谷キャンプ場を出発、16:00 に有峰ハウスに到着、チェックインしました。18:00 に夕食、19:00 より、栗林講師による夜の語り部講でキノコの勉強会を開催しました。20:30 夜の勉強会を終了しました。

二日目27日は、雨天でしたが、朝食前の早朝より、キノコを求め、猪根平を散策する参加者もありました。自由広場周辺には、カラマツも植林されており、例年なら、食用のハナイグチやシロヌメリイグチが出ているはずです。早朝の散策、成果があったようです。

7:00 朝食後、8:30 参加者の皆さんにビジターセンターへ集合戴き、森永指導員より本日の日程、注意点について説明しました。本日のきのこ採取・観察の目

的地は徒歩で移動できる猪根平周辺で、11:00 まで2時間半の時間があります。11:00 ビジターセンターに集合戴き、昨日と同様採取してきたきのこの同定を行いました。今日は、食用のハナイグチやシロヌメリイグチを採取した人が多かったようです。

12:30 より宿泊先の有峰ハウスで昼食、13:30 からふりかえりの会を実施しました。ふりかえりの会では、次長吉江より挨拶、引続き講師栗林先生よりキノコの利用法（処理法や注意点）について説明戴き、最後に担当の森永指導員より参加者へのお礼を兼ねた挨拶をしました。14:00 有峰文化村職員全員で駐車場よりお見送りをして「秋の恵の集い」を終了しました。

前日まで、キノコが採取・観察できるか心配していましたが、皆さん何とかお目当てのキノコ？を採集されたようで安堵しました。ミズナラやブナを中心とした夏緑樹林帯ですが植林されたカラマツも生育する複雑多様な植生を呈しており、キノコ相も豊富であることが知られています。

参加者のほとんどは食用のキノコ採集が目的です。採集したきのこは毒キノコも多く、キノコの食毒の判定には、専門家のサポートなくして実現できないと痛感しており、キノコを同定（鑑定）戴いた講師の栗林先生に感謝申し上げます。



はじまりの会で挨拶する次長吉江



はじまりの会で説明する森永指導員



冷タ谷キャンプ場で昼食中の参加者



倒木に生えたキノコを観察中の参加者



冷タ谷キャンプ場でキノコ採取に向かう参加者



採取したキノコを同定中の栗林先生



悲願のマイタケを見つけほくそえむ参加者



「キノコの勉強会」で解説中の栗林先生



悲願の天然のマイタケを手にする親子



栗林先生の解説に傾注する参加者



本日の日程を説明する森永指導員



ふりかえりの会で挨拶する森永指導員



猪根平周辺でのキノコ採りを終えた参加者



山の恵み持参で帰路に就く参加者



採取したキノコを同定中の栗林先生



ふりかえりの会で挨拶する次長吉江